

# clarion



第72期

## 中間株主通信

平成23年4月1日～平成23年9月30日



クラリオン株式会社



取締役社長 泉 龍彦

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。さて、第72期第2四半期累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の中間株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は、本年3月に発生しました東日本大震災の影響による部品供給の逼迫、自動車の生産調整による国内新車販売台数の減少等が生じたものの、回復に向けて全社一丸となって懸命に取り組み、さらに継続して変動費の低減や固定費の削減に努めました結果、当第2四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高は減収となりましたものの各段階利益におきましては増益となりました。

第3四半期以降につきましては、タイにおける洪水による直接的な物的被害はありませんが、これに起因する部品供給の回復の遅れや自動車生産への影響等が懸念されます。このような状況下におきまして当社グループは、中期経営目標達成に向けてグローバル戦略を展開し、拡大する新興国へ資本投入を行い、各市場ニーズに対応した製品開発とマーケティングを実施しながら加速してまいります。また、生産・販売プロセスの効率化に向けてSCM（サプライチェーン・マネジメント）改革を実施するなど、需要の確実なキャッチアップ並びに機会損失とロスコストの発生抑止による利益確保に取り組んでまいり所存であります。

今後とも株主各位の皆様のご期待に副うべく一層の経営努力を重ねてまいり所存ですので、何卒よろしくご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

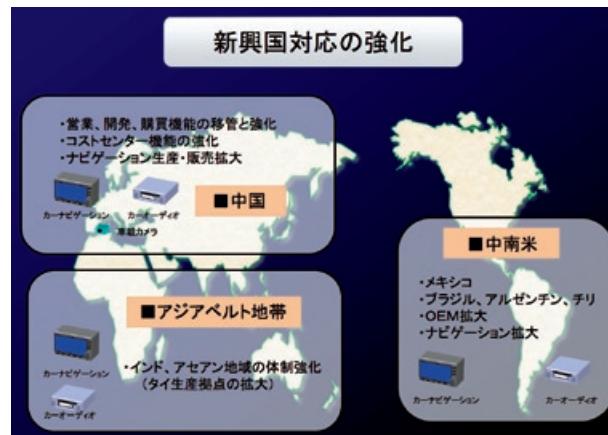
平成23年12月

### 当第2四半期累計期間の概要

当第2四半期連結累計期間における業績につきましては、東日本大震災に起因する部品供給問題が改善し、自動車メーカーの車両生産台数も回復基調にあるものの、日本国内における新車販売台数が大幅に減少したことに加え、円高の進行による販売金額の減少等もありました結果、連結売上高は804億16百万円と前第2四半期連結累計期間比13.8%の減収となりました。

損益面につきましては、変動費低減活動の継続的な推進及び徹底した固定費の発生抑止に努めました結果、24億17百万円の連結営業利益の計上（前第2四半期連結累計期間比5.3%の増益）となりました。また、営業外収支の改善等により連結経常利益は22億78百万円（前第2四半期連結累計期間比23.2%の増益）となりました。さらに税金費用等を控除し、17億25百万円の連結四半期純利益（前第2四半期連結累計期間比64.6%の増益）となりました。

### グローバル戦略

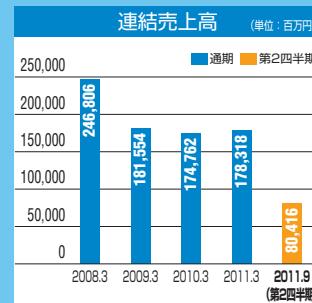


当社グループは中期経営目標達成に向けて、成長市場に経営資源を投入していきます。各市場ニーズにマッチした製品作りとマーケティング力の強化により、グローバル戦略を加速してまいります。中国ではカーナビのニーズの高まりに対応して、中国での生産と開発の移管を進めております。また、新たなナビゲーションの商圏も獲得しており、今後の市場拡大が期待されます。中南米においては、メキシコ、ブラジルを中心にさらなる売上拡大に向けて活動中です。アジアではタイを拠点としてアセアン全域に商圏を拡大していきます。インドにおいても大型商圏が決まってきており、アジアベルト戦略をさらに進めてまいります。

### 商品戦略



当社の電気自動車向けカーナビゲーションは、センターサーバーと様々な車両情報をやりとりし、電池の残容量や目的地までの距離、走行状態を確認しながら、最適なルート案内や充電スタンドへの案内を行います。また、最近販売台数を伸ばしているスマートフォンは、高性能かつ多機能であることから、当社はスマートフォンと車載機を組み合わせることで、これまでにない新しい機能や利便性を実現して、ハードとソフトの一体化による商品価値の提供を行ってまいります。



## カーナビゲーション「Smoonavi」シリーズの新商品を発売

「便利に、楽しく、カスタマイズ」をコンセプトに、ユーザーの必要性や好みに応じアプリケーションをダウンロードし追加することでナビゲーションの機能アップを図ることができる新機能「CARDGET(カージェット)」を開発し、新商品に搭載いたしました。

安くて近いガソリンスタンドを手軽に探すことができる「e燃費」(株式会社イード提供)、美人が1分ごとに時刻を知らせてくれる「美人時計」(株式会社美人時計提供)、駐車場の満空情報を確認することができる「駐車場満空情報」(パーク24株式会社提供)、現地周辺の知りたい情報を手に入れる「道の情報」、必要な機能を必要な数だけ追加して、オリジナル仕様のカーナビにすることができます。

多彩な新機能により、シンプルで使いやすい操作性、高機能性を両立するカーナビとして好評の「Smoonavi」シリーズのさらなる進化を図りました。



車載用AVナビゲーション「NX711」



CARDGETメニュー画面



自車位置周辺のガソリン価格情報



美人時計画面表示

## 地域別セグメントの業績

## ①日本

国内経済は、東日本大震災からの復旧とともに企業の生産活動や個人消費には回復の兆しが見られましたが、長引く円高は輸出企業の収益を圧迫しており、景気回復への足取りを重くしております。

自動車業界におきましては、部品メーカーの被災影響等により大幅に生産が減少したため、4～9月における国内新車販売台数は前年同期比24%の減少となるなど、当社グループにとって厳しい状況が続いております。

業績につきましては、東日本大震災による新車販売台数の落ち込み等の影響により、セグメント売上高は432億12百万円と前第2四半期連結累計期間比13.3%の減収となりました。

損益面につきましては、変動費比率の改善及び固定費の削減効果により、セグメント利益は19億2百万円と前第2四半期連結累計期間比54.5%の増益となりました。

## ②米州

米国における4～9月の新車販売台数は前年同期を上回っているものの、欧州における財政・金融危機による混乱、高止まりしている失業率及びガソリン価格の高騰等を背景に個人消費の伸び悩みが見られ、米国経済の減速感が鮮明となってきております。

業績につきましては、震災に伴う部品供給問題に起因した販売単価の安い製品への切り替え等の影響により、セグメント売上高は251億59百万円と前第2四半期連結累計期間比17.4%の減収となりました。

損益面につきましては、販売費及び一般管理費の削減効果はありましたが、減収の影響によりセグメント利益は6億51百万円と前第2四半期連結累計期間比43.5%の減益となりました。

## ③欧州

ユーロ圏の経済は、米国や中国の景気減速による輸出伸び悩みのほか、ギリシャに端を発する財政・金融危機の深刻化により、株価やユーロが弱含みで推移しており、景気の先行きは不透明なままです。

業績につきましては、市販市場向けの売上は好調に推移いたしました。OEM(相手先ブランドによる生産)市場向けの売上減少により、セグメント売上高は55億37百万円と前第2四半期連結累計期間比7.5%の減収となりました。

損益面につきましては、3百万円のセグメント利益と前第2四半期連結累計期間比93.2%の減益となりました。

## ④アジア・豪州

国内の投資拡大に支えられて高い経済成長率を遂げてきた中国経済は、依然高水準の成長を維持しているものの、欧州の財政・金融危機や国内のインフレ抑制に向けた金融引き締め策に

より、3四半期連続でGDPの伸び率は鈍化しております。他のアジア新興諸国においても総じて同様の傾向にあります。

業績につきましては、中国OEM市場への売上の伸び悩み等により、セグメント売上高は65億6百万円と前第2四半期連結累計期間比7.4%の減収となりました。

損益面につきましては、売上減収により55百万円のセグメント損失となりましたが、販売費及び一般管理費の削減等により前第2四半期連結累計期間より損失幅は改善されました(前第2四半期連結累計期間は1億2百万円のセグメント損失)。

## 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較し30億24百万円減少し、1,007億45百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金並びにたな卸資産は増加しましたが、短期貸付金並びに現金及び預金の減少等によるものであります。

負債につきましては、支払手形及び買掛金の減少等により、前連結会計年度末と比較し34億17百万円減少し、916億23百万円となりました。

純資産につきましては、円高影響により為替換算調整定が減少したものの、連結四半期純利益の計上により、前連結会計年度末と比較し3億93百万円増加し、91億21百万円となりました。自己資本比率は8.7%で、前連結会計年度末と比較して、0.5ポイント増加いたしました。

## (2) 連結キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物残高は35億57百万円(前第2四半期連結会計期間末残高は103億56百万円)となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては、税金等調整前四半期純利益の計上はありましたが、たな卸資産の増加、仕入債務の減少等により、19億43百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は36億32百万円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、短期貸付金の回収等はありませんでしたが、生産設備等の有形固定資産及びソフトウェア等の無形固定資産の取得等で、14億20百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は15億87百万円の支出)となりました。その結果、フリー・キャッシュ・フローは33億63百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は20億45百万円の収入)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、3億62百万円の支出(前第2四半期連結累計期間は14億32百万円の支出)となりました。

四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	期別		科目	期別	
	当第2四半期 (平成23年9月30日現在)	前期 (平成23年3月31日現在)		当第2四半期 (平成23年9月30日現在)	前期 (平成23年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	58,071	60,679	流動負債	37,448	60,913
現金及び預金	3,558	7,421	支払手形及び買掛金	21,928	23,704
受取手形及び売掛金	25,708	24,931	短期借入金	601	20,643
商品及び製品	12,989	11,996	未払法人税等	567	697
仕掛品	1,053	859	賞与引当金	1,753	1,779
原材料及び貯蔵品	8,939	7,971	製品保証引当金	383	417
その他	6,053	7,777	災害損失引当金	213	384
貸倒引当金	△230	△277	その他	12,002	13,286
固定資産	42,674	43,089	固定負債	54,175	34,127
有形固定資産	21,873	21,987	長期借入金	40,552	20,717
無形固定資産	15,941	15,901	退職給付引当金	10,010	9,874
のれん	5,025	5,483	役員退職慰労引当金	194	194
ソフトウェア	10,270	9,799	製品保証引当金	394	375
その他	645	618	その他	3,023	2,964
投資その他の資産	4,859	5,200	<b>2 負債合計</b>	<b>91,623</b>	<b>95,041</b>
<b>1 資産合計</b>	<b>100,745</b>	<b>103,769</b>	<b>純資産の部</b>		
			株主資本	20,035	18,310
			資本金	26,100	26,100
			資本剰余金	2,669	2,669
			利益剰余金	△8,609	△10,335
			自己株式	△124	△124
			その他の包括利益累計額	△11,247	△9,775
			その他有価証券評価差額金	115	96
			繰延ヘッジ損益	0	△7
			土地再評価差額金	939	939
			為替換算調整勘定	△12,302	△10,803
			少数株主持分	334	194
			<b>3 純資産合計</b>	<b>9,121</b>	<b>8,728</b>
			<b>負債・純資産合計</b>	<b>100,745</b>	<b>103,769</b>

Point 1

総資産は前期比30億24百万円減少いたしました。震災に伴う部品供給問題から、今後の増産に備えて調達促進を行うなどしたことにより、たな卸資産は増加しましたが、運転資金を中心として資金需要が大きく、現金及び預金の取崩しにて賄ったこと等によるものです。

Point 2

負債は前期比34億17百万円減少いたしました。震災対応により第1四半期における資材調達が減少したことによる支払手形及び買掛金の減少、並びに経費の支出を抑えてきたことから、その他の流動負債が減少したこと等によるものです。なお、シンジケートローンのまき直しにより、短期借入金から長期借入金への借り換えを行っております。

Point 3

純資産は円高影響により為替換算調整勘定が減少いたしました。四半期純利益の計上により前期比3億93百万円増加いたしました。また、自己資本比率は8.7%と前期比0.5ポイント増加いたしました。

Point 4

国内では、震災の影響により新車販売台数の落ち込みの影響で、主にOEM（相手先ブランドによる生産）市場に対する売上が大きく減少いたしました。一方前期まで販売が好調でありました米州及び中国を筆頭とするアジア地域においても震災による部品供給問題や円高影響を受け、当期の連結売上高は804億16百万円と前期比13.8%の減収となりました。

Point 5

震災の影響により売上高は前期比減収となりましたが、変動費低減活動の継続的な促進及び徹底した固定費発生抑止に努めてまいりました結果、連結営業利益は前期比5.3%増の24億17百万円となりました。また、為替差益の計上等による営業外収支の改善により、連結経常利益は22億78百万円と前期比23.2%の増益となりました。連結四半期純利益については、主に税金費用が減少したことにより、17億25百万円と前期比64.6%の大幅な増益となりました。

Point 6

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上はありましたが、たな卸資産の増加、仕入債務の減少等により19億43百万円の支出となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、短期貸付金の回収等はありませんが、生産設備等の有形固定資産及びソフトウェア等の無形固定資産の取得等で14億20百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、長期借入金の返済、ファイナンスリース債務の返済等により、3億62百万円の支出となりました。

四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当第2四半期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
<b>4 売上高</b>	<b>93,318</b>	<b>80,416</b>
売上原価	78,641	67,278
売上総利益	14,676	13,138
販売費及び一般管理費	12,380	10,720
<b>5 営業利益</b>	<b>2,296</b>	<b>2,417</b>
営業外収益	214	438
営業外費用	661	577
<b>5 経常利益</b>	<b>1,849</b>	<b>2,278</b>
特別利益	90	73
特別損失	248	191
税金等調整前四半期純利益	1,691	2,160
法人税、住民税及び事業税	571	414
法人税等調整額	68	18
少数株主損益調整前四半期純利益	1,052	1,727
少数株主利益	4	2
<b>5 四半期純利益</b>	<b>1,048</b>	<b>1,725</b>

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	当第2四半期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
<b>6 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,632</b>	<b>△1,943</b>
<b>6 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,587</b>	<b>△1,420</b>
<b>6 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,432</b>	<b>△362</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△449	△291
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	163	△4,018
現金及び現金同等物の期首残高	10,192	7,421
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	154
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,356	3,557

平成24年3月期連結業績予想

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
1,750億円	53億円	45億円	35億円

## 会社の概要 (平成23年9月30日現在)

商号 クラリオン株式会社  
Clarion Co.,Ltd.  
本店・技術センター 埼玉県さいたま市中央区新都心7番地2  
本社事務所 埼玉県さいたま市中央区新都心11番地2  
電話 (048) 601-3700 (代表)  
設立年月日 1940年12月18日  
資本金 26,100,302,467円  
従業員数(連結) 8,977名  
(単独) 1,574名  
主要製品 カーナビゲーション、カーオーディオ、  
車載用カメラ、映像機器、バス機器、  
通信機器  
ホームページアドレス <http://www.clarion.com>

## 株式の状況 (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数 450,000,000株  
当中間期末発行済株式総数 282,744,185株  
株主数 18,352名

## 大株主 (平成23年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社日立製作所	179,815 <sup>千株</sup>	63.78 <sup>%</sup>
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	8,154	2.89
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカунツ ジエイビー アールデイ アイエスジー エフイーエイシー	4,199	1.49
ゴールドマンサックスインターナショナル	3,292	1.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,031	0.72
クラリオン従業員持株会	1,595	0.57
資産管理サービス信託銀行株式会社	1,303	0.46
日本証券金融株式会社	865	0.31
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツ ジエイビー アールイーシー アイティアイシー	703	0.25
野村証券株式会社	677	0.24

(注1) 持株比率は自己株式(797,953株)を控除して計算しております。

(注2) 信託銀行各社の持株数には、信託業務に係る株式数が含まれております。

## 役員一覧 (平成23年9月30日現在)

取締役社長 泉 龍彦 常勤監査役 滝沢 克俊  
常務取締役 吉 峰 徹 郎 監査役 藤村 一路  
常務取締役 金子 徹 監査役 笹井 保大  
取締役 笠井 成志 監査役 山ノ川 孝二  
取締役 川本 英利  
取締役 河元 哲史  
取締役 本田 恭彦  
取締役 篠崎 雅継

※取締役のうち、本田恭彦氏及び篠崎雅継氏は、社外取締役であります。  
※監査役のうち、笹井保大氏及び山ノ川孝二氏は、社外監査役であります。

## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 3月31日  
定時株主総会 3月31日  
期末配当金 3月31日  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
TEL 0120-232-711 (通話料無料)  
上場取引所 株式会社東京証券取引所  
株式会社大阪証券取引所  
公告の方法 電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
公告掲載URL <http://www.clarion.com>

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。